

今、最もみずみずしいと感じる有名人トップ 10

順位	名 前	割合 (%)
1	広瀬すず	7.27
2	有村架純	4.93
3	新垣結衣	3.27
4	綾瀬はるか	3.00
5	石原さとみ	2.20
6	土屋太鳳	1.53
	藤井聡太	
8	波留	1.47
9	福士蒼汰	1.20
10	北川景子	1.13
	菅田将暉	

【ご参考】過去調査時の結果

(2007年調査)			(1996年調査)		
順位	名 前	割合 (%)	順位	名 前	割合 (%)
1	長澤まさみ	15.8	1	西田ひかる	8.1
2	斎藤佑樹	7.8	2	山口智子	6.8
3	藤原紀香	7.3	3	イ子ロー	4.8
4	上戸彩	5.7		安室奈美恵	
5	石川遼	4.2	5	観月ありさ	4.2
6	浅田真央	3.4	6	鶴田真由	2.9
7	松嶋菜々子	2.6	7	松嶋菜々子	2.6
8	成海璃子	2.3	8	内田有紀	2.4
9	吉永小百合	1.8		木村拓哉	
	仲間由紀恵		10	ともさかりえ	2.0
	蛭原友里	瀬戸朝香			

沖大幹先生による解説 ~Oki's View~ ③

【好きな水辺&水辺でしたいこと】

「海の砂浜」は男女差なく特に若い世代に人気であるのに対し、「川岸」は男性33%、女性21%(7頁・上図参照)と男性が好んでいる。水辺でしたいことについて、「水辺を散歩する」が男性36%で女性47%、「水辺でレジャーをする」が男性26%、女性20%という結果と合わせると、女性は砂浜を歩きたがっているのに対し、男性は水辺でレジャーをしたがっているのではないかと推測される。「水音に癒される」に至っては男性25%女性41%と大差がついており(7頁・中図参照)、男性は水辺で癒されたい女性の気持ちを汲んで、水辺での過ごし方を考えたほうがよいのかもしれない。

【みずみずしい有名人】

並みいる女性陣に混じって将棋棋士の藤井聡太氏がトップ10に入っている。「若くて活躍しているとみずみずしいと感じてもらえるのか」というのは年寄りのひがみか。

基本的には連続ドラマやCMで目にする機会が多いタレントが上位になっているようにも見え、「みずみずしいと感じる」でなくとも「好感度が高い」や「応援したい」、あるいは単に「知っている」でもほぼ同じ結果になるのではないか、という気もする。

水と災害

Q.不安に感じている災害は？ (22択+その他+特に不安を感じたことはない)

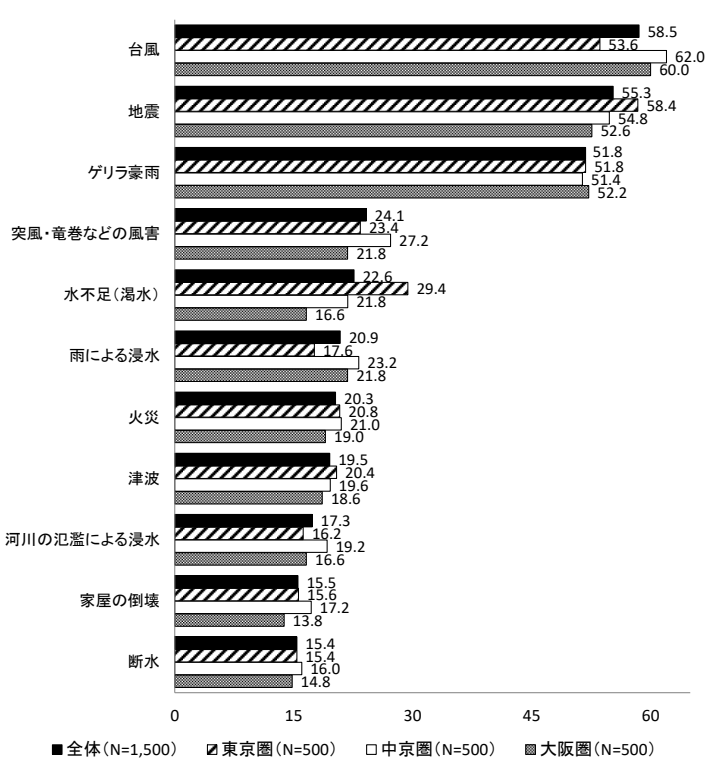
Q.最も不安に感じている災害は？ (22択+その他)

◇「台風」が全体の1位に。但し、“最も”不安に感じているのは「地震」

不安に感じている災害を聞いたところ、「台風」(58.5%)が1位となり、昨年トップの「地震」(55.3%)が2位で、以下、3位「ゲリラ豪雨」(51.8%)、4位「突風・竜巻など」(24.1%)、5位「水不足」(22.6%)と続きました。居住地別にみると、中京圏と大阪圏は、ともに「台風」が6割超(中京62.0%、大阪60.0%)で1位でしたが、東京圏の1位は「地震」(58.4%)となり、「台風」(53.6%)は2位でした。

上記「不安に感じている災害」の設問と同様の選択肢で、「最も不安に感じている災害」を1つ選んでもらったところ(「特に不安を感じたことはない」の回答者は含まず)、こちらは「地震」(44.8%)が断然のトップで、「ゲリラ豪雨」(15.5%)が2位、前問1位の「台風」(14.7%)は3位という結果になりました。

不安を感じている災害(複数回答/単位:%) ※上位10項目



最も不安に感じている災害トップ5(単数回答/単位:%)

	全体(N=1338)	東京圏(N=445)	中京圏(N=447)	大阪圏(N=446)
1位	地震 44.8	地震 48.3	地震 42.7	地震 43.5
2位	ゲリラ豪雨 15.5	ゲリラ豪雨 15.3	台風 16.6	ゲリラ豪雨 20.0
3位	台風 14.7	台風 11.5	ゲリラ豪雨 11.2	台風 16.1
4位	津波 5.5	津波 5.4	津波 6.3	津波 4.9
5位	河川の氾濫による浸水 3.3	水不足 3.6	河川の氾濫による浸水 4.5	河川の氾濫による浸水 3.1

沖大幹先生による解説 ~Oki's View~ ④

【水と災害】

災害は地震に限らないのに「防災の日」には地震に対する避難訓練をする組織が多いように、「最も不安に感じる災害」をひとつだけあげるとするとやはり地震が半数近くで断然の1位ではあるが、「不安を感じている災害」として、地震を2位に抑えて台風が1位、以下ゲリラ豪雨が3位、突風竜巻が4位、水不足が5位、そして雨による浸水6位と気象・水象関連災害が続くのは興味深い。

台風が1位となった大きな理由として、昨年2016年には8月に4個もの台風が上陸し、北海道に年間3個、東北地方太平洋側から上陸1個と異例の台風経路が話題となったことがあげられるだろう。

地域別には大阪や名古屋で台風への不安が高いが、東京では低い。これは、室戸台風やジェーン台風で大きな被害を受けた大阪や、伊勢湾台風が襲った名古屋では台風に対する防災教育が今も続けられているのに対して、東京は関東大震災の経験が主に語り継がれているからかもしれない。

統計期間をどう設定するかにもよるが、災害による死者数では地震、津波、高潮、河川の氾濫や土砂災害、それらをもたらす台風による被害が多く、本調査の「最も不安に感じる災害」においても、それらの災害はほぼ上位に入っている。ただ、その中に「ゲリラ豪雨」が入っているのがやや不思議である。「集中豪雨」と同じく「ゲリラ豪雨」はマスコミによって生み出され広まった言葉であり、厳密な学術的あるいは行政的な定義はない。集中豪雨とゲリラ豪雨がほぼ同じ意味に使われる場合もあるので、今回の回答でも「集中豪雨」を想定して「ゲリラ豪雨」と答えた方も多かったのかもしれないが、「集中豪雨」は局所的な被害をもたらすような継続的で激しい梅雨末期の大雨等を指すことが多いのに対し、「ゲリラ豪雨」は夕立の特に激しいものを指す場合が多い。

広島に深刻な土砂災害をもたらした平成26年8月豪雨や、鬼怒川の破堤など大規模な被害をもたらした平成27年9月関東・東北豪雨はどちらも組織的な豪雨が広範囲に継続しており、集中豪雨ではあるがゲリラ豪雨ではない。もちろん、ゲリラ豪雨でも平成11年6月29日福岡での豪雨災害のように、JR博多駅前御笠川(みかさかわ)が氾濫して地下室への浸水により人命が失われる場合もあるが、通常は極めて短時間の浸水やマンホールからの逆流などが生じるだけでゲリラ豪雨により生命を失う危険性は低い。

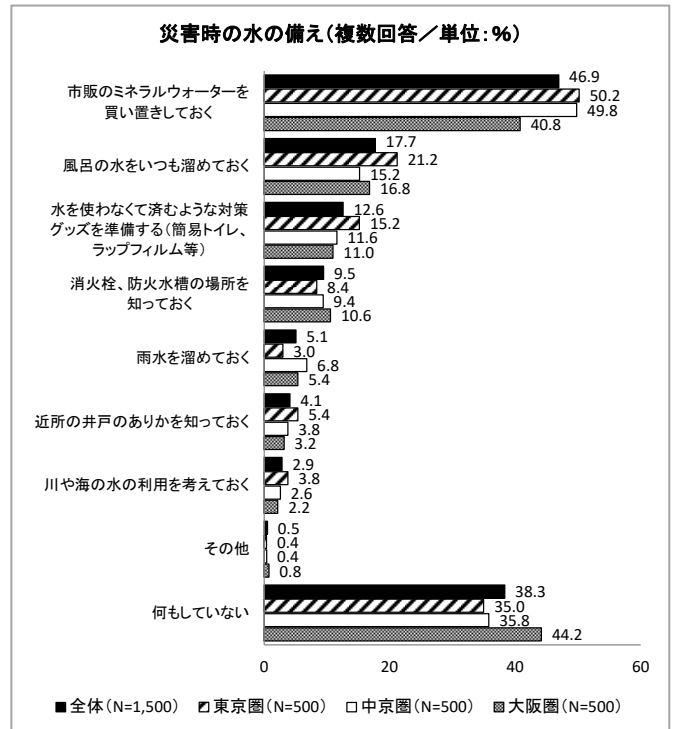
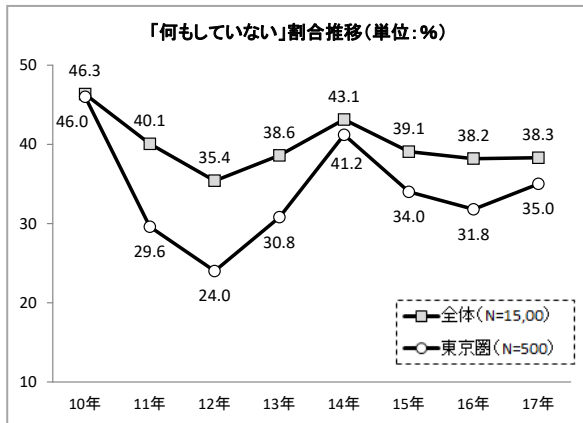
それでもゲリラ豪雨に対して台風と同様に「最も不安」を感じる人が多いのはなぜだろうか。単に「ゲリラ」という語感のせいかもしれないが、あるいは、首都圏を中心として「ゲリラ豪雨」が報道される機会が多く、遭遇する確率が高いと感じているからかもしれない。そういう意味では、以前はなかなか映像で目にすることが少なかった突風や竜巻も、スマートフォンの普及により、誰でもどこでもビデオ映像を撮影可能となり、記録に撮られて放映される機会が増えたため、不安を感じる人が増えているのだと想像される。

この調査は本年7月の九州北部豪雨よりも前の6月に行われており、今なら「河川の氾濫に対する浸水」への不安を訴える人がもっと多いのではないだろうか。いずれにせよ、怖がって終わらせるのではなく、不安を払拭すべく、日ごろの備えを万全にする行動に結びつけるのが大事である。

Q.災害時に対する水の備えは？（7択＋その他＋何もしていない）

◇「ミネラルウォーターを買い置く」が昨年同様1位。東京圏の「何もしていない」人は増加

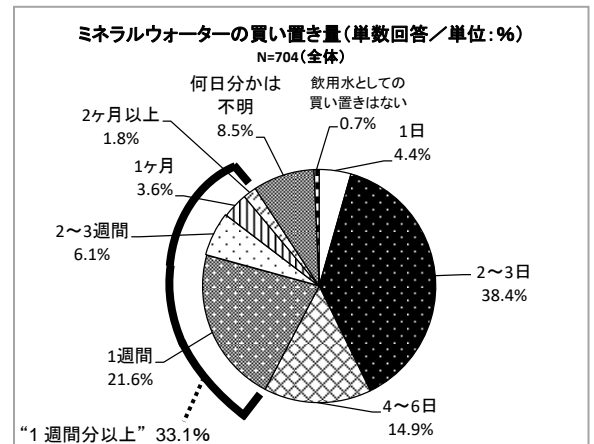
「災害時に対する普段の水の備え」は、昨年同様1位は「ミネラルウォーターを買い置きしておく」(46.9%)だったものの、昨年(48.9%)より2ポイント減少しました。また、約4割の人が「何もしていない」という状況も、昨年から変わりませんでした。東京圏では2014年以降、「何もしていない」人の割合が、2014年41.2%、2015年34.0%、2016年31.8%と減少していましたが、今年は35.0%と増加に転じました。



Q.ミネラルウォーターの買い置き量は？（9択）

◇昨年同様、最も多いのが「2～3日」分、「1週間」分以上が約3割

上記「災害時に対する水の備え」の設問で「ミネラルウォーターを買い置く」を選択した回答者を対象に、実際の買い置き量(飲用として)を尋ねたところ、1位は「2～3日」(38.4%)、「1週間」(21.6%)が2位、「4～6日」(14.9%)が3位で、「2～3日」以上の期間を回答した人の合計は86.4%、「1週間」以上を回答した人は33.1%となりました。それぞれの項目について僅かな数値変動はあったものの、傾向としては昨年と同様でした。



沖大幹先生による解説 ～Okī's View～ ⑤

【水の備え】

ミネラルウォーターの買い置きをしている人の中で、行政のガイドラインに沿って3日分～1週間分の水を確保している人が8割を超えるのは頼もしい。少し気になるのは、全体の2%にも満たないごく少数ではあるが2ヶ月以上と答えた人がいる点である。家族2人だとしても1日分が2Lのペットボトルで3本。2ヶ月分だと180本で、6本パックの箱で30箱である。古い方から使って定期的に補充しているのだとしても、30箱のペットボトルはそれなりに場所を取る。積み上げていたら、それこそ地震の際に崩れないか心配だ。場所に余裕のある一戸建ての人限定かと思ったら、集合住宅でも2ヶ月分以上の水を貯えている人がいる。高層階で「いざという時にエレベーターが止まったら運ぶのが大変だから」と心配しているのだろうか。

災害に対する備えは自助努力が基本で、いざとなったら行政や他人がなんとかしてくれると、あてにするのはお気楽すぎるし、社会の迷惑でもある。いざという時でも、2ヶ月分の水を蓄えている方に頼らずに済むように、自宅の備蓄を見直してみてもいいだろうか。